

未来につなぐ幸福のバトン

5

津屋崎祇園山笠

300年以上の伝統を誇りに

時を超えてつなぎたい

熱気と歓声に包まれる津屋崎祇園山笠

「オイサツ」「オイサツ」
三流れが駆け抜ける
福津の熱い夏



歴史の語り手
添田政武さん

津屋崎祇園山笠の歴史
江戸時代から300年以上続く津屋崎祇園山笠。昔は前を走る山が遅いと後ろの山がぶつかり「喧嘩山」といわれていたほどです。時代に合わせて代替わりしながら、ずっとまちを盛り上げていってほしいと願っています。

記念すべき復活50年祭 / PICKUP

津屋崎祇園山笠は、約300年ほど前に博多祇園山笠の櫛田神社から波折神社に神様を迎え、疫病や災害退散を祈願して山笠を奉納したのが始まりといわれています。戦後、働き手不足となり、昭和30年代に一時中断した山笠は、その後昭和50年に復活し、令和6年の復活50年祭は、より一層の盛り上がりを見せました。「北流」「新町流」「岡流」の3つの流れがあり、山笠期間中は昇き手の家族、地域が一丸となり山笠の成功を支えています。



50周年記念動画



掛け声とともに一気に山が動き、清い水、勢い水、力水をかぶりながら3つの山が勇ましく駆け抜けます。



筑前津屋崎人形巧房
原田誠さん

私自身も小さなころは山笠に参加していました。おぼろげに昔から山笠の人形も手伝っていたのを覚えています。人形も時代とともに変化があり、戦いよりも駆除や退治という意味合いが増えてきました。伝統芸能もそうですが、文化を残していくには後継者が必要。子どものころから山に触れてほしいですね。



津屋崎祇園山笠振興会会長
花田実さん

元々は山笠「保存会」でしたが、これからは保存だけでなく振興を図って津屋崎だけでなく福津市全体に知ってもらおうと名前を変更することになりました。まずは子どもたちにしっかり浸透させることが大事。今は忙しい世代であっても、一度昇いた経験があれば、きっとまた山を昇きたいと思える日が来ると思います。



若頭
松田晋介さん

復活50周年という記念すべき節目にこの時代でしか出会えなかった仲間とともに山を昇けたことを大変うれしく誇りに思っています。山を昇くのは男たちですが、昇き手の奥様がたが裏方を支え、人形師さんや地域のたくさんのかたの力で昇られていることを次の未来へ大事に引き継いでいきたいと感じます。